

法政大学文学部日本文学科卒業論文題目

雑誌名	日本文学誌要
巻	5
ページ	69-71
発行年	1960-06-10
URL	http://hdl.handle.net/10114/00019006

法政大学日本文学科卒業論文題目

一九五九年度

△古代▽

記紀歌謡の世界

—創造主体をめぐって—

祝詞について

万葉集構成研究

万葉集における譬喩歌の素材に

ついて

山部赤人小論

筑前国志賀白水郎十首

竹取物語の創作主体における現

実否定の論理の胚胎

万葉第三期の作品—形態とその

素材について

蜻蛉日記について

かげろふ日記における創作主体

の発展

紫式部日記私論

和泉式部日記異考

源氏物語第一部の世界

渡辺 進

加藤 信雄

田中 享

高橋 昭

矢口 力子

船川千鶴子

菅谷 山雄

小野寺 隆

小田 澄子

川上 順子

本橋 敏克

榊 正明

土岐 敬一

源氏物語第一部の世界

源氏物語第一部の構成研究

源氏物語第一部の方法

「かくろへごと」の世界

源氏物語「須磨」論—第一部に

おける遮断的な世界を中心に

宇治十帖における女主人公達の

世界

浮舟の入水をめぐって

今昔物語における盗賊談につい

て

西行の抒情について

△中世▽

平家物語の女性について

平家物語の登場人物に対する作

者の見解

平家物語における仏教思想の性

格

松本 明

古田島徳夫

田丸 弘

佐藤 雄二

斎藤 宏

中川 浩子

柴垣 国子

守谷 正男

花沢 耀男

川口 欣子

佐藤 成計

中山 光次

平家物語における人間像の一考

察

平家物語の説話性

戦記物語の成立に歴史物語はど

んな影響をあたえているか

平家物語における武人の姿

平家物語の文学性及び因果関係

平家物語

徒然草における兼好と異性

つれづれ草の矛盾について

世阿弥における花の意義

世阿弥の脇能物の構成

世阿弥能楽論における貴人と一

般

鬼能における鬼の思想の系統性

について

脇能

謡曲詞章の変遷について

御伽草子作品研究

御伽草子に関する一考察

△近世▽

近世社会と文学

近松時代瑠璃研究の序編

近松作品における演劇性の発展

野明 厚夫

原田 義元

今井征四郎

橋本 武彦

村松 欣也

鈴木 良明

高橋 憲治

千野キヨミ

小高 信明

庄島 裕一

大貫 博雄

坂崎 彰

児玉 裕治

中川富美雄

佐藤 信幸

菅 正吾

立川 宏一

岡部 治男

とその構造分析

- 近松の時代浄瑠璃の性格
- 近松研究——義理について
- 近松の時代物における死
- 近松初期時代浄瑠璃の問題
- 近松の芸術観
- 近松研究——人間の生の問題について
- 近松時代浄瑠璃の一考察
- 近松文学の発想
- 近世演劇史における近松
- 近松における義理について
- 近松研究とその作品
- 近松の芸術序説
- 説経浄瑠璃と近松の間
- 近松の現代化に対する視点
- 近松世話浄瑠璃論
- 古浄瑠璃と近松の時代浄瑠璃
- 好色五人女について
- 日本永代蔵論
- 好色五人女における女性像
- 好色一代男の研究
- 西鶴町人物の意義
- 井原西鶴好色物における愛欲の展開過程

高橋 勝人	好色一代男論	池田 健造	近代日本における歴史変革と自己変革	鈴木 穆
田屋登代美	武道伝来記作品論	宮根 栄	逍遙の作品研究	渥美 淑郎
青木 求	井原西鶴論	松本 次夫	一葉文学の女性たち	榎木鉄五郎
高田 睦子	好色一代女における転合精神について	牧野 素子	樋口一葉小論	阿部浩四朗
金安 定義	西鶴の町人像——日本永代蔵について	沖野 智	樋口一葉——その文学生涯	小林 秀行
亀谷 慶子	芭蕉——冬の日以前——	山田 実	「浮雲」における諸問題	小林 曠
藤野佐久恵	芭蕉論——蕉風成立過程の考察	太田 明甫	独歩の不徹底性	木村 秀利
中村 光次	和歌から俳諧へ——イメージについて	秋永 季久	国木田独歩——自然主義上の系譜	藤田 昭
山上 英男	蕉風連句小論	小林 晋作	国木田独歩——創作主体とキリスト教	高山 陸男
代市 明	芭蕉の抵抗	林田 敬子	国木田独歩の人と文学	杉田 京子
田中 義久	ひさご——「木のもと」の巻について	山本吉左右	独歩文学におけるリアリズムの系譜	東 幹男
村岡 由資	芭蕉、詩と無常観	大川 邦夫	国木田独歩論	小杉 好男
樋口 孝治	風俗文選の表記法	故木 宗一	九州佐伯と独歩	日高 正俊
柏原 俊治	仮名手本忠臣蔵の研究	川端 正道	島崎藤村小論	橋詰 彰雄
盧 博鑑	怪異文学覚え書	椿 敬三	「家」における対象と方法への一視角	西原 保
横倉 毅	恋川春町と金々先生栄華夢	中川 利弥	島崎藤村の内部の客観的考察	矢野 真言
中西統久子	浮世風呂研究	丸山 久夫	「破戒」と「緑葉集」との関係	岡本 佳久
西村 幸子	黄表紙の諷刺性について	山田 清	「破戒」における思想論	河野 道雄
榎本 記子	式家三馬における滑稽の性質	行田 貞男	田山花袋とその作品	小林 宏
加藤八重子			田山花袋の主要作品について	末田 敏昭
高橋 亮				田頭 滋
押田 好司				
石井 優	△近代△			

田山花袋

花袋「蒲団」を中心とした自然主義の性格

「蒲団」

文学的模索時代の徳田秋声

—初期の作品から—

徳田秋声

—作品における女性と作者—

徳田秋声論—家と女性像—

石川啄木小論

長塚節論—散文と対象として—

長塚節と「土」について

夏目漱石研究

夏目漱石の三つの作品について

「行人」における「心」の問題

鈴木三重吉の小説の世界

志賀直哉の文学

有島武郎のアンガーシエ

有島武郎論—個人と社会の問題

高村光太郎における美的理念

高村光太郎の詩について

萩原朔太郎に関する覚え書き

会津八一論

島田清次郎論

芥川の歴史小説

佳山 好炳

芥川竜之介—自殺について
童話文学における未明

村松 忠夫

菊地寛の啓吉物

松井 正夫

広津和郎論

中根タカ子

嘉村磯多—自己解体とその根拠

高橋 正

嘉村磯多論

中村 正美

徳水直の初期の作品について

安部 勝弘

小野重治詩集

小堤 陽造

小林多喜二論

石坂 満

佐多稲子—初期の作品について

池田 達彦

労働者文学と民衆芸術論

戸田 宏

黒島伝治論—反戦的作品とその

川上 祐

リアリズム

佐々木治平

黒島伝治の反戦文学について

福原 和淑

転向文学論

幡野 哲郎

横光利一小論

藤塚 政秀

「上海」論

湯本 秀宣

川端康成—人と作品

加藤 久保

伊藤整試論

小熊 祐治

牧野信一の作品の性格

池田 祐計

小林秀雄の文学について

桶 浩一

堀辰雄と「死」

佐藤 泰司

堀辰雄文学にあらわれた女性像

吉岡 琢司

堀辰雄論

渋谷 礼子

丹羽文雄論—作品にあらわれた

山田 二郎

社会観—

日向満津男

石川淳の芸術と方法

依田 守史

太宰治研究

山田 春男

太宰治小論

佐々木豊弘

太宰治の文学について

阿部 岩男

推名麟三論

松沢 滋紀

久保栄論序草—社会主義リアリ

村上 徳一

ズム演劇評価にふれながら—

酒井 清則

三島由紀夫論

滝本 克子

武田泰淳論

松本 孤

現代小説における形式の変革

近藤 武

戦後日本文学における農民心理

畑山 秀俊

の変化

安江 武夫

戦後の児童文学

千葉 篤

シナリオ文学論

徳田 洽美

戦後の児童文学

三上 孝之

の変化

山本 和子

戦後の児童文学

前川 宗雄

戦後の児童文学

石尾 球枝

戦後の児童文学

永福 無蘭

戦後の児童文学

岩瀬 孝子

戦後の児童文学

大林 成子

片岡 一之

常住郷太郎

末成 実

寺尾 雅明

滝本 秋男

稲垣知恵子

小川 三郎

志賀 哲夫

千葉 俊昭

新井 俊一

谷本 伸堆

紀川 政春

菊地 英雄